



9月 度の
の御書

さん さん ぞう き う の こと
「三三蔵祈雨事」

御文

夫れ木をうえ候に

は大風吹き候へども

つよきすけをかひぬ

れば・たうれず

(御書1468ページ)

意味

木を植えた場合に、大風

が吹いたとしても、強い助

けや支えがあればたおれま

せん。

そう か か ぞく み かた ぜん しん
創価家族はみんなの味方。いっしょに前進しよう！

やあ、ボクはライオン博士のキング君！

まずは、このお話を聞いてね。

あるところに、植えられたばかりの小さな木がありました。幹や枝は細く、根っこもまだ地中に広く深くのびていません。

そんな小さな木を、友だちの動物や鳥たちはいつも見守っていました。

ある時、強い風がビュービューとふき始めました。小さな木は今にもたおれそうです。そこに動物や鳥たちが、かけつけました。

あるものは小さな木を支え、あるものは「風よけ」となり、あるものは「がんばれ！ 負けるな！」と、一生けんめいに声をかけます。みんなに助けられ、小さな木は強風をたえしのぶことができました。

それから、小さな木はたくさんの仲間と支え合っで成長し、いつしか立派な大樹となりました。

お話はここまで。みんな、どうだった？ この小さな木のお話、じつは人も同じなんだよ。

どんなに大変なことがあっても、「支えてくれる人、がいればたおれない。話を聞いてくれる人、はげましてくれる人、正しい道を教えてくれる人……。そうや

って自分を「支えてくれる人、を大切にして、お題目を唱えて前進していけば、どんな悩みも必ず乗り越えていけるんだよ！

ボクたちにとっての「支えてくれる人」とは、例えば家族や学校の先生、友だち。そして何より創価家族のみなさんがそうだよ。

学会は「一人ももれなく幸福に！」と、みんなで祈り、はげまし合っている世界一の団体なんだ。池田先生が先頭に立って、この温かいはげましの世界をきずいてくれたんだよ。

みんなの周りの学会員さんは、先生と同じ心で、みんなの幸せを願い、見守ってくれている。「いつだって味方になって、応えんしてあげたい！」という気持ちなんだ。だから、いつでも、どんなことでも相談していいんだよ。

池田先生も、みんなに真心のエールを送られているよ。

「私は、皆さんの絶対の味方です。私の命である皆さんの健康と成長を、いつも祈っています。いつでも見守っています」

さあ、どんなときも「創価の心、ではげまし合い、大きな明るい心で進んでいこうよ！